



【実施報告】



WIT


WOMEN IN INNOVATION SUMMIT

2016

その挑戦が、明日を変える。三重から変える。

日時 9月23日(金) 10時~18時(受付開始:9時30分)・24日(土) 10時~12時30分

会場 鈴鹿サーキット 三重県鈴鹿市稲生町7992



WIT2016

Women in Innovation Summit 2016

概要説明

『Women in Innovation Summit 2016(WIT2016)』は、2016年5月に開催された伊勢志摩サミットにおいて「女性の活躍」が議論され、首脳宣言においても、世界経済が強く安定的に成長するために必要不可欠なものとして位置づけられたことをふまえ、内閣府(男女共同参画局)、外務省、農林水産省、経済産業省及び経済協力開発機構(OECD)の後援を得て、「あらゆる分野における女性の活躍」をテーマに、2016年9月23日(金)から24日(土)にかけて、鈴鹿サーキットにおいて実施しました。

フォーラムのなかでは、「地域と女性の力で切り開く未来」をテーマにしたキーノートセッションやダイバーシティ経営戦略についてのパネルディスカッション、今話題の「リケジョ」や「農業女子」に代表されるような最先端科学・技術分野において活躍する女性のセッションなどが行われました。また、あわせて、様々な分野における女性の活躍の可能性を提示し、これからの時代に求められる新しい生き方、働き方を具現化していくためのプロジェクトアワード「STAR SHOW」を開催し、今後の女性活躍につながる重要なキックオフイベントとなりました。

本フォーラムの成果として、鈴木知事と参加者一同による『Women in Innovation Summit 2016 共同宣言』が行われ、閉会となりました。

また、フォーラムの内容を受けて行われた地元学生によるグループワーク及び成果発表では、次世代を担う学生ならではの意見が多く出され、それらをまとめた『WIT2016 みえユース提言』が行われました。

今後も、WIT2016 をきっかけに各地に新たなムーブメントが広がっていくことを目指します。

目次

1. オープニング・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P4
2. Keynote Session・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P5
3. ダイバーシティ経営戦略・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7
4. 最先端科学・技術分野において活躍する女性・・・・・・・・・・・・P9
5. 地域の食文化を女性により次の世代につなぐ・・・・・・・・・・・・P10
6. Tech Women セッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P11
7. サーキットコンテンツ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P12
8. プロジェクトアワード「STAR SHOW」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P15
9. 共同宣言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P16
10. 地元学生によるグループワーク及び成果発表・・・・・・・・・・・・P19

1. オープニング

日時：2016年9月23日(金) 10:19~10:41

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

オープニングアクト『斎王』

主催者挨拶

鈴木 英敬（三重県知事）

ビデオメッセージ

キャロライン・ケネディ（駐日米国大使）

内容

古えより伊勢神宮と縁がある「斎王」の登場と共に WIT2016 がスタート。「古代のキャリアウーマン」が代々派遣されるなど、女性活躍に関わりの深い三重の地での開催ということもあり、「斎王」演出をオープニングアクトとして実施した。

主催者挨拶では鈴木知事が登壇し、三重県には歴史的にも女性が活躍してきた背景がある中で、伊勢志摩サミットにおいて女性活躍の重要性が再確認されたことを受け、三重県から本イベントを契機に女性活躍の更なる気運醸成を図ると共に、新たなムーブメントを広げていきたいと語られた。挨拶冒頭では『チャンスは貯金できない』という言葉があるように、あらゆる分野の女性に対し、貴重な機会に目標に向かって一歩踏み出すことの重要性を訴えた。さらに、応援メッセージとしてキャロライン・ケネディ駐日米国大使より本イベントに対する盛會を祈る言葉と共に、革新には多様性が必要であるとした上で、新しい役割を担い、旧来の期待に反発し、自らの能力を証明する日本の女性達に日々触発されているといったコメントを頂いた。

また、Keynote Session 終了後、豊田俊郎内閣府大臣政務官からのご挨拶では、女性活躍の推進が経済成長を加速させる旨が強調され、政府としてもより一層多様な働き方が可能となる社会の実現を目指すとのお言葉を頂戴した。



2. Keynote Session

日時：2016年9月23日(金) 10:41~11:08

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

セッションタイトル

『The sky is the limit ~地域と女性の力で切り開く未来~』

スピーカー

キャシー 松井（ゴールドマン・サックス証券株式会社副会長/グローバル・マクロ調査部アジア部門統括/チーフ日本株ストラテジスト）

村上 由美子（OECD 東京センター所長）

内容

OECD 東京センター所長である村上氏が、松井氏を迎える形でキーノートセッションを実施。「ウーマノミクス」という造語が松井氏によって作られた言葉であることが紹介されることからセッションはスタートした。ウーマノミクスレポートが発表された1999年当時は、経済界・政策面での反応は殆どなかったものの、今、安倍政権の成長戦略として注目されているのは、当時よりも人口動態問題がより深刻化したことによる、と松井氏は分析した。

村上氏は『国際成人力調査（PIAAC）』を引用し、日本人女性の読解力および、数的思考力は世界一（OECD 加盟24か国中1位）であることを紹介し、女性一人ひとりが自信を持ってほしいと訴えた。また、女性の活躍を考える上でのキーワードとして「イノベーション」を掲げ、「イノベーションと女性活躍のつながり」についても議論された。松井氏は、アメリカや日本の分析から、取締役/部長に女性がいない企業といる企業では、女性がいる企業の方がROE（株主資本利益率）が高いことを紹介しながら、「決定プロセスに違った立場からインプットが入ることが、女性が提供できる価値であり、イノベーションの源泉である」と語り、男性とは違った女性ならではの視点がイノベティブかつクリエイティブな商品開発や経営戦略を生み出していくのではないかと議論は盛り上がった。

セッション後半では、松井氏のプライベートな話や人生観についても紹介された。その中で、松井氏はよく女性から「いつ結婚すべき？いつ子ども作るべき？キャリアを達成してから子どもを作るべき？」という質問を受けるが、上手くプランニングしても99%は外れるのが人生であると語った。またご病気の経験を経て、優先順位を考え、整理した経験もご紹介された。村上氏の海外経験からも、日本人女性は完璧にやろうとしがちであるが、「完璧でなくてよい。また、目の前にチャンスや機会がきたらとりあえずやってみてほしい」とのメッセージが伝えられ、キーノートセッションは終了した。

参考

*国際成人力調査（P I A A C）

http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/data/Others/_icsFiles/afieldfile/2013/11/07/1287165_1.pdf

*ウーマノミクスレポート（Womenomics）

<http://www.goldmansachs.com/our-thinking/investing-in-women/bios-pdfs/womenomics-pdf.pdf>

3. ダイバーシティ経営戦略

日時：2016年9月23日(金) 11:18~12:00

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

セッションタイトル

『ダイバーシティ経営戦略 ~女性の本質的な活躍を後援し加速させる、リーダー会議~』

モデレーター

岡島 悦子 (株式会社プロノバ代表取締役社長/グロービス経営大学院教授)

パネリスト

玉塚 元一 (株式会社ローソン代表取締役会長 CEO)

冨塚 優 (株式会社リクルートホールディングス執行役員/

株式会社リクルートアドミニストレーション代表取締役社長)

松本 晃 (カルビー株式会社代表取締役会長兼 CEO)

鈴木 英敬 (三重県知事)

内容

経営者のリーダーシップ開発等に多く携わる岡島氏をモデレーターとしてお迎えし、ダイバーシティ推進に先進的である企業3社・1組織から、玉塚氏、冨塚氏、松本氏、鈴木知事が登壇。企業や組織がよりイノベーションを生む必要性が高まる中で、各組織の先進事例を交えながら、女性活躍推進の意義と価値が討議された。その中で、「全ての均質化・同一化を求める画一的な組織」から、「多様なままで働くことを可能とする多様性を活かす組織」に変化することの価値が確認され、その変化は摩擦やストレスが発生することが多いが、それこそがイノベーションを生み、企業や組織の成長に欠かせないとの結論に達した。各組織の先進事例については、2つの視点「横の議論(女性従業員の比率向上)」と「縦の議論(女性管理職比率向上)」から語られ、実際に女性がどのように活躍しイノベーションを生んでいるのかという事例と共に、ダイバーシティ推進の課題を解決するための具体的な制度や研修も紹介された。セッション最後には、モデレーターの岡島氏から、「女性活躍推進」をきっかけとし組織のマネジメントの仕組みや働き方を変えていくことの重要性和、ダイバーシティ推進には多くの課題が発生するからこそ経営トップのコミットメントが重要であることが語られ、大盛況のうちにセッションは幕を閉じた。

参考

*プロノバ

<http://www.pronova.co.jp/category/1838839.html>

*ローソン

<http://www.lawson.co.jp/company/corporate/personnel/diversity.html>

*リクルートホールディングス

[http://www.recruit.jp/company/csr/sustainability/labor_practices/diversity.ht
ml](http://www.recruit.jp/company/csr/sustainability/labor_practices/diversity.html)

*カルビー

<http://www.calbee.co.jp/csr/social/diversity.php>

*三重県

<http://www.pref.mie.lg.jp/IRIS/index.htm>

4. 最先端科学・技術分野において活躍する女性

日時：2016年9月23日(金) 12:00~12:36

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

セッションタイトル

『最先端科学・技術分野において活躍する女性～新産業創出と人材育成～』

モデレーター

井原 慶子（カーレーサー/慶應義塾大学大学院特任准教授/
Fusion 株式会社代表取締役）

パネリスト

遠藤 典子（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授）
片田江 舞子（株式会社東京大学エッジキャピタル(UTEC)パートナー）
中島 さち子（ジャズピアニスト/数学者/
Phoenix Consulting CEO Office 次長/啓林館顧問）
本島 圭奈子（日産自動車株式会社パワートレイン パートナーシップ&
アライアンスコーディネーションオフィス 課長）

内容

カーレーサーで、三重県政策アドバイザーも務める井原慶子氏をモデレーターに迎え、最先端科学・技術分野で実際に活躍している遠藤氏、片田江氏、中島氏、本島氏が登壇。セッション前半では、4氏が携わるプロジェクトや今後の展望について語られた。

各プロジェクトを通じて、既存の理系イメージに留まらない、最先端科学・技術分野の新しい活躍の姿が示された。また、プロジェクト遂行においては、女性の強みとして、テーブルの上に議論をのせること、競争型社会よりも領域横断型社会を得意とすること、コミュニケーションによる共感の輪を広げること等が生かされていることが語られた。

セッション後半では、科学・技術分野に携わる女性はまだ少ない現状に対して、どのように向き合えばよいかディスカッションされた。教育現場においては「理系は就職先が少ない」というイメージを打破し、科学・技術分野の職業の魅力や選択肢の多さを伝える必要があること、企業においては、現場に留まることに満足している女性に対してもマネジメント層として活躍する機会を与えていくべき等のアイデアが出された。

また、女性一人ひとりが、「(女性は) こうあるべきだ」という考えを捨て、自分ができることに制限をつけずに意識変革を行い、活躍の場を見つけていくことが必要という意見や自分より「前を歩く人」を見つけることは難しいが故に、自らで道を切り開くために、周囲の協力や感謝が欠かせないとの意見も出て、非常に盛り上がる中、セッションは幕を閉じた。

5. 地域の食文化を女性により次の世代につなぐ

日時：2016年9月23日(金) 13:19~13:57

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

セッションタイトル

『地域の食文化を女性により次世代につなぐ』

モデレーター

齋藤 由佳子 (Genuine Education Network(GEN) S.r.l 代表取締役社長)

パネリスト

北川 静子 (有限会社せいわの里代表取締役)

清水 加奈 (有限会社マルシゲ清水製茶/かぶせ茶カフェ店主/
農業女子プロジェクトメンバー)

内容

ミラノ万博日本館公式サポーターとしてミラノ万博やミラノ市立子供美術館へ日本食や地域文化をテーマとした教育プログラムを提供した実績をもつ齋藤由佳子氏をモデレーターに迎え、三重県多気町にて地域の人々とともに農村料理まめやの運営を行っている北川氏、また伊勢茶やかぶせ茶を多くの人に知ってもらうため、かぶせ茶カフェの店主として、また農業女子のプロジェクトメンバーでもある清水氏が登壇。特に農業分野における女性の活躍にフォーカスして議論された。

農業を含む第一次産業は、担い手不足が課題で、女性の活躍が期待される分野である。「おいしい」と感じることは、共通の言語となりうるものであり、それぞれの地域で古くから伝承されてきた食文化がある。この食文化の持つ価値を親から子、孫の代まで引き継いでいくことや農業における女性の働き方について、出産・子育てをしながら農業に携わってきた両氏の経験をもとに語られた。

6. Tech Women セッション

日時：2016年9月23日(金) 13:50~14:35

場所：鈴鹿サーキット VIP スイート

セッションタイトル

『ライフスタイルを創造する技術イノベーション』

モデレーター

西村 真里子（株式会社 HEART CATCH 代表取締役兼プロデューサー）

スピーカー

小島 由香（株式会社 FOVE 最高経営責任者/共同創業者）

佐藤 亜未（日産自動車株式会社 総合研究所研究企画部主任研究員(課長格)）

内容

様々なメディアにて、インターネットのインタラクティブティと変革、デザインとマーケティングの必要性を発信し続ける、HEART CATCH 代表の西村氏をモデレーターに招き、最先端技術と体験を追求する株式会社 FOVE 代表の小島氏と、日産自動車株式会社の佐藤氏が登壇。セッション前段では、3 氏の取り組みやビジョンについて語られた。

ハードウェアの分野で日本から世界に挑戦するスタートアップの代表を務める小島氏から、起業に至った経緯やビジョンが語られ、独自の高度なアイトラッキング技術が映像で紹介されると、来場者からの視線が一点に集まった。「かけがえのない経験・時間が、最新技術によって誰にでも体験できるような世界を作りたい」という小島氏に対し、「昨今はテクノロジーが、洗練されたデザインやマーケティングによって、より身近な存在になってきている」と話す西村氏。日産の佐藤氏からは、それら最新技術を追求する企業、そして一人の研究員の視点から「将来のモビリティ社会に新たな価値を創造していきたい」と、同社の取り組みが語られた。

セッション後半では、「これからの働きかたとライフスタイル」について、3 氏と来場者を交えてのディスカッションが繰り広げられた。佐藤氏は、同社での部署異動や仕事の変化を通じて向き合ってきた自身のキャリア感について語り、小島氏からは、創業した会社の規模が拡大するなかで感じた苦悩や、仲間とビジョンを共有しながら前進することの充実感などが話された。

来場者からは、「普段大切にしている視点は何か」「悩んだ時にはどのように判断しますか」など、数多くの質問が 3 氏に寄せられ、活発な議論がなされた。最後に西村氏より、「テクノロジー＝ 時代を牽引するもの。混沌とした時代、女性の包容力が今まで以上に大切になる」とのメッセージがあり、セッションは大盛況に幕を閉じた。

7. サーキットコンテンツ

日時：2016年9月23日(金) 13:20~15:10

場所：鈴鹿サーキット サーキットエリア

Technology Showcase

<ドローンコーナー>

- ・出展社 : 株式会社 Drone Games
- ・概要 : ①ドローン体験コーナー／②ドローン展示コーナー

<+Style(プラススタイル)>

- ・出展社 : +Style(power by ソフトバンク株式会社)
- ・概要 : IoT (Internet of Things) 製品などを創出したいと考える企業と最先端の IoT 製品などを購入したいと考える消費者をつなげるプラットフォームである+Style を紹介するブース。

<マツダブース>

- ・出展社 : マツダ株式会社
- ・概要 : ①展示車両(CX-5)でのドライビングポジション講座
②人間工学のご紹介(モニター利用)
③休憩スペース
④展示車両(アクセラ)でのヘッズアップコックピットのご紹介
⑤フレグランス 「SOUL of MOTION」 展示

<ソフト 99 ブース>

- ・出展社 : 株式会社ソフト 99 コーポレーション
- ・概要 : ソフト 99 の製品展示

<ホンダブース>

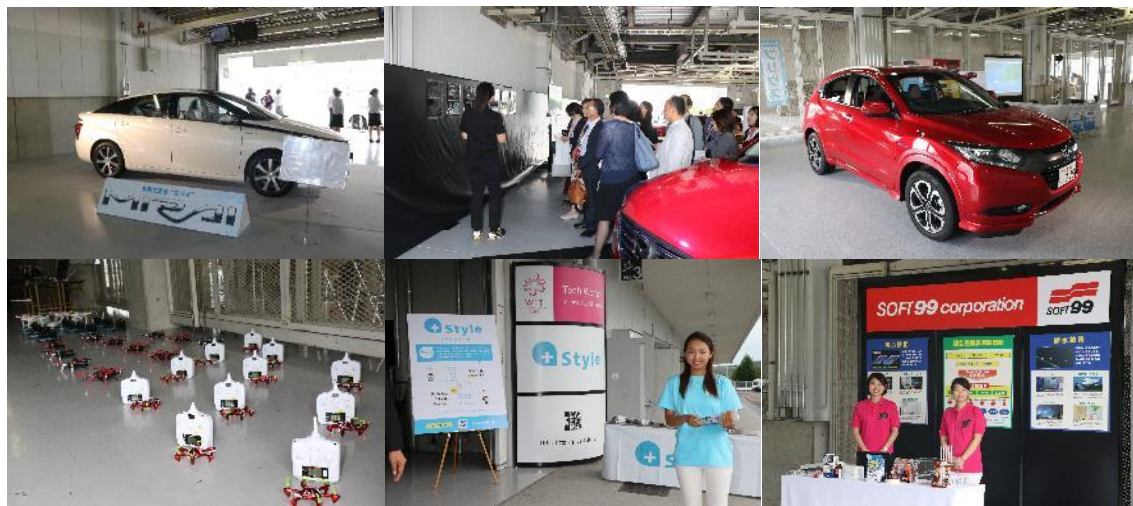
- ・協賛社 : 本田技研工業株式会社
- ・出展社 : 株式会社ホンダ四輪販売三重北
- ・概要 : 車両展示 (ヴェゼル、レジェンド)

<トヨタブース>

- ・協賛社 : トヨタ自動車株式会社
- ・出展社 : 三重トヨタ自動車株式会社
- ・概要 : 車両展示 (プリウス、ミライ)

合計6社の企業が鈴鹿サーキットのピットにて製品展示や体験会を実施。マツダ株式会

社のブースでは女性エンジニアによる自動車の最新テクノロジーの紹介やドライビングポジションの講座なども展開された。またドローンや最先端 IoT 製品のブースでは多くの参加者が製品体験を楽しんでいた。



試乗会

〈一般試乗〉

- ・車両提供 マツダ株式会社
- ・同乗スタッフ マツダ株式会社
- ・参加者 21 名

〈同乗試乗〉

- ・車両提供 株式会社ホンダ四輪販売三重北、マツダ株式会社
- ・ドライバー Love drive 株式会社
- ・参加者 31 名

鈴鹿サーキットの東コースにて参加者を対象にした試乗会を実施。参加者自身が運転しサーキットを走行する一般試乗と、Love drive 株式会社によるプロ女性ドライバーの運転で助手席に同乗する同乗試乗の2つの試乗会を実施。通常、走行する事のできないサーキットのコース体験は参加者に特別な体験を印象付けた。試乗会の体験人数に限りはあったが、サーキットエリアからS-PLAZAへのバス移動の際、バスによるサーキットコース走行を実施し、参加者全員のコース体験を実施する事ができた。



8. プロジェクトアワード「STAR SHOW」

日時：2016年9月23日(金) 15:33~18:05

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

これからの時代に求められる新しい働き方に繋がるプロジェクトやアイデアについて、事前審査を通過した10名のファイナリストが3枚のスライドで各自5分間のプレゼンテーションを実施。栄えある「みえモデル賞」には、名張市で農園を営む井上氏のプレゼンテーション「女性だからこそできる新しい農業の形」が「農福連携(農業と福祉の連携)」や「観光農園」など、女性ならではの多様性に富んだ視点とその行動力を評価され選ばれた。

ファイナリストのプレゼンテーション後には、3名のゲストプレゼンターが同じフォーマットにて自身の取り組んできたプロジェクトを発表し、三重県における女性活躍のモデルケースとも言える「成功事例」をオーディエンスに提示した。

ファイナリスト

NO	氏名	プレゼンテーションタイトル	受賞
1	本田 美香	地域の木と暮らすライフスタイルの提案	
2	伊藤 理恵	子育てと仕事をシェアする仕組み nico*lab ワーク	オーディエンス賞
3	松倉 敬子	農家のお母ちゃん7人によるレストラン起業	
4	木崎 芙美	産んで働ける！子育てトータルサポート事業	
5	西井 勢津子	田舎のリアリティは裏口から！ バックヤード・サイクリング・ツアー	イノベーション賞
6	服部 美穂	HAGUKU-MIE 多様な働き方を育む	
7	井上 早織	女性だからこそできる新しい農業の形	みえモデル賞
8	石田 元気	古くて新しい女性の働き方	
9	森永 のり子	未来に繋ぐ、真珠の陸上養殖	
10	川北 睦子	退職後、子育て中にキャリアが磨ける三重県へ	IBM 賞

ゲストプレゼンター

氏名	プレゼンテーションタイトル	所属
エリカ・サマーヴィル	明日からでもできる！様々な女性が集まり活躍できるWTCのカフェスタイルのフェミニズム！	三重県多文化共生課
小林 さやか	『伊勢茶』の魅力を活かしたオリジナルスイーツの開発	株式会社ローソン
末松 則子	女性の市長そのものが新しい働き方	三重県鈴鹿市長

9. 共同宣言

日時：2016年9月23日(金) 18:07～18:19

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

この三重の地は、伊勢神宮をはじめ、多様性を認め発展してきたという歴史、伝統、文化があり、その価値は、伊勢志摩サミットにおいて世界から認められ、県民も誇りをもって再認識しました。

G7伊勢志摩首脳宣言を受け、今日ここ鈴鹿サーキットに集った我々WIT2016の参加者は、互いに多様性を認め合い、女性の活躍によるイノベーションをさらに加速させるため、各々の立場で次の通り宣言します。

【自ら行動する女性の宣言】

WIT2016に集った皆さまのように、多くの女性や各界リーダーの活躍によって、これまでにないイノベーションが起きつつあります。一方で、働き方の制約や既存概念が壁となり、私たちは自らブレーキをかけざるを得ないこともあります。

このWIT2016は、女性活躍の次なるステージを加速させる「ギアチェンジの場」です。皆で共有した、多様な働き方、産業間連携、地域間連携などのアイデアを元に自身の能力をさらに育み、「成果の花」を咲かせていきます。

そのために、私たちは、アクセルを強くしなやかに踏み込み、チャレンジすることを宣言します。

【女性の活躍を応援する各界リーダーの宣言】

私たちは、それぞれの職場・地域で女性が活躍できる社会の実現に向け従来の男性中心型の労働慣行や社会通念にとらわれることなく、新たなイノベーションの創出を促し、女性がその持てる能力を最大限発揮できる環境づくりに取り組むことを宣言します。

【知事の宣言】

女性の活躍を実現するためには、「男性が変わる」「働き方を変える」ことが重要です。三重県は、女性の活躍を継続的に支援していくためのプラットフォームを構築するとともに、WIT2016の開催を通じてそのムーブメントを加速させ、女性の活躍推進にアクセルを踏むことを宣言します。

平成28年9月23日

三重県知事 鈴木 英敬

Women in Innovation Summit 2016 参加者一同

<英訳>

Joint Declaration

The Mie region is blessed with the Ise Shrine, along with history, tradition and culture that have evolved on the strength of recognition of the precious worth of diversity. That value was previously acknowledged by the world during the Ise-Shima Summit, inspiring the residents of Mie Prefecture to renew and further expand the great sense of pride in their homeland.

In the spirit of the declaration presented at the G7 Ise-Shima Summit earlier this year, those of us gathered here today at Suzuka Circuit to take part in Women in Innovation Summit 2016, wish to issue our own set of declarations, as noted below. Spanning all respective positions, these statements are shaped from mutual respect of the immense importance of diversity, and the passionate desire to accelerate the move toward innovation achieved by women.

[Declaration of Women's Independent Action]

Unprecedented innovation has been taking place by growing numbers of active women and leaders as exemplified by those who have gathered here for Women in Innovation Summit 2016. At times, however, we have no choice but to personally put on the brakes when facing stereotypes and barriers of restrictions on how work can be performed.

Clearly, the WIT Summit 2016 is a pivotal arena for shifting gears to accelerate to the next stage of advancement by women. With diversified approaches to work, collaboration across industrial lines, collaboration between communities and other ideas that we all share at the foundation, the goal is to ensure redoubled cultivation of our own abilities, in support of the spirited blooming of “flowers of accomplishment.” To achieve this, we pledge to press down firmly on the accelerator with renewed strength and resilience, in rising to meet the challenges that lie ahead.

[Declaration of Leaders from All Circles in Support of Progress by Women]

We hereby pledge to actively engage in the mission to build a society in which all women are empowered in their respective workplaces and communities, unhampered by conventional male-focused labor practices and socially accepted

ideas. We will move forward to encourage the creation of new innovations, while putting into place environments enabling women to manifest their competencies to the maximum degree.

[Governor' s Declaration]

To truly enable women to live up to their fullest potential, it is important for “men to change,” and to “change how work is performed.” Mie Prefecture pledges to construct a platform to support the tireless endeavors of women, while working through sponsorship of the WIT Summit 2016 to instill greater speed in this movement and boldly step on the accelerator for women to excel in today' s world.

September 23, 2016

Eikei Suzuki, Governor of Mie Prefecture

All Participants, Women in Innovation Summit 2016

10. 地元学生によるグループワーク及び成果発表

日時：2016年9月24日(土) 10:00~12:30

場所：鈴鹿サーキット S-PLAZA さくらホール

タイトル

『地元学生によるグループワーク及び成果発表』

モデレーター

朴恵淑（三重大学人文学部・地域イノベーション学研究科教授/
三重大学地域 ECO システム研究センター長）

参加学生

三重大学・大学院 学生 14名
鈴鹿医療科学大学 学生 4名
鈴鹿大学・鈴鹿短期大学 学生 6名 計 24名

内容

男女共同参画、「リケジョ」、ワーク・ライフ・バランスの推進及び外国人・多文化共生社会の構築に実践活動を行っている三重大学 朴教授をモデレーターに迎え、地元三重の大学・大学院に通う学生 24 名が、1 日目のイベント内容を受けて、個々の意見をグループで共有し、これからの時代に求められる新しい生き方、働き方について議論した。

テーマは

- ①「なりたい自分」
- ②「なりたい自分」になるためのキャリア形成
- ③「自分のめざすワーク・ライフ・バランス」
- ④『みえモデル』～幸福を実感する三重での生き方、働き方～

として、15分毎に4つのテーマをすべて回り自らの意見を述べる「ワールドカフェ」形式にて行われた。

女子学生にとどまらず、男子学生の参加も多くあり、また海外からの留学生も参加し、次世代を担う、学生ならではの意見が多く飛び交った。グループワークの後、学生から出た様々な意見をまとめ「WIT2016 みえユース提言(別紙)」を作成。参加学生全員により鈴木知事への提言が行われた。



みえユース提言

私たちは、持続可能な社会の実現と人類の繁栄からなるアイデンティティを確立するため、三重の歴史と文化、自然から学び、世界に誇れる三重の男女共同参画社会の構築に向けて、次のように提言します。

1. 将来の展望についての意識付けを早期に行い、キャリア形成について研修の機会を積極的に提供すべきです。
学生と行政・企業が一丸となり、意識付けと経験を重ねることで、将来に向けて具体的なビジョンを持った成熟した市民社会の一員となれます。
2. 自分の目指すワーク・ライフ・バランスを実現するため、「仕事」と「生活」の両立を支援する社会環境を整えるべきです。
それによって、社会人となった姿を具体的に考える機会を得て、自分の理想がより実現可能なものとなります。
3. 幸福を実感する生き方・働き方をするため、就職活動の際、個人の考えと企業理念や経営方針の適合性について知る機会を提供すべきです。
自分の考えを実現できる場が得られ、幸福を感じながら働くことができる三重を創ることが出来ます。

私たちは、平等で持続可能な社会を構築します。
三重の未来を担う私たちは、三重の豊かな自然と文化的な多様性を理解し、国際協力を通じて、地域に根ざし、世界へ通用する世界一の三重男女共同参画社会を創ることを提言します。

2016年9月24日
WIT2016 学生グループワーク参加者一同